

輪廻ということ

フォーラム・無と全体の輪廻

2018年6月3日

近代以前の人々は、
「直線的に進む時間」とは異なる
「めぐる時間」を生きていた

〈直線的な時間〉対〈円環的な時間〉
・後者の代表としての「輪廻」



1、ところが、輪廻の思想は、
仏教とともに伝来した。

それ以前の人々は、
「輪廻」を知らなかったことになる。



輪廻の思想を受け入れる前の
日本列島の人々

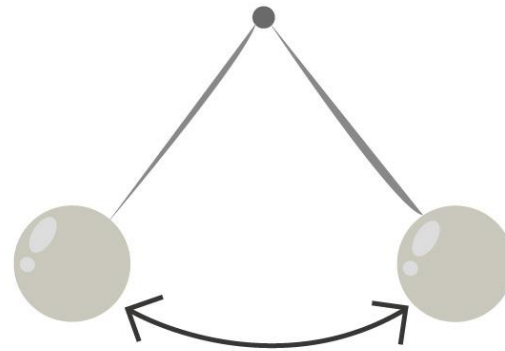
「直線的」時間でもなく、
輪廻の「円環的」時間でもない



「めぐる時間」ではあるが
「円環」ではない



⇒「反復する時間」



入れ替わる、可逆的
振り子のように、pendulum

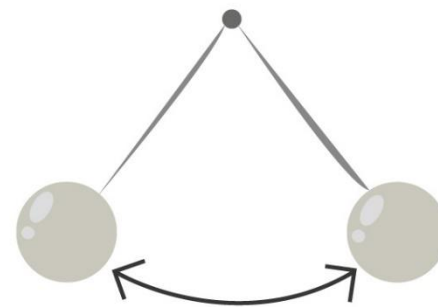
あの世とこの世を行ったり来たりする

一貫性を持たない discontinuity

明るい・暗い・明るい・暗い・明るい・・・
昼・夜・昼・夜・昼.....

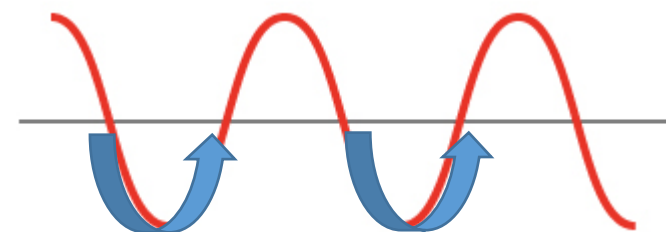
「反復する時間」は一貫性を
持たない。**可逆的。**

・あの世とこの世を行ったり
来たりする



「輪廻の時間」は一貫性を持
つ。**一方向性。**

・「戻る」のではなく、「生まれ
変わる」



2、仏教の目的は
輪廻を教えることではなかった

むしろ、輪廻を克服すること

和辻哲郎

「輪廻なきことが真相」



1) 輪廻の信仰は
仏教特有ではない

仏教に先立ち、古代インドにおいて
一般に行われていたもの

2) 原始仏教は
輪廻の信仰の**克服**を目指した

「法」を如実に観るならば、
我は無く、したがって、輪廻もない。

「輪廻なき事が現実の真相」である。

3)しかし仏教は、民衆の心を捉えるため、
多様な民間信仰を取り入れた

輪廻の信仰を踏まえた説話
「本生譚(ジャータカ)」

民衆の心を捕え、その誤りを確認させる。
反転させることが目的。

4) 輪廻信仰が前提となっていた地域においては、有効な戦略として機能した。

しかし、輪廻を前提としない地域にその教えが広まった時、予期せぬ事態が生じた。

輪廻は常識ではなく新鮮な「**教え**」となった。

5) 輪廻は、克服されるべき信仰ではなく、新鮮な「教え」として受け入れられた。

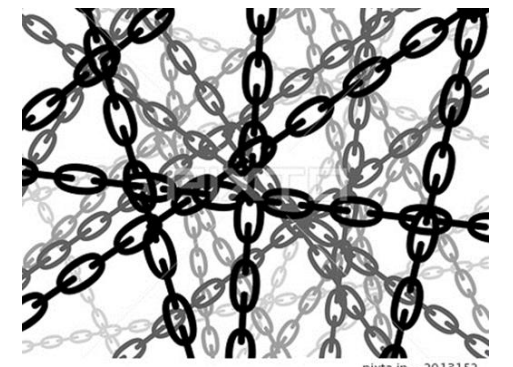
⇒ 人びとの人間観を変換させた。

3、二つの大きな「変換」が生じた

A, 人生は現世に留まらない
時間的輪廻



B, 生きとし生けるすべての生とつながる
空間的輪廻



A, 何度も生まれ変わる
人生は一度きりではない

以前にも別の姿で生きていた
これからも別の姿に生まれ変わる

「私の時間」の大幅な延長

Chain of karma

Karmic loop or chain
in time sequence

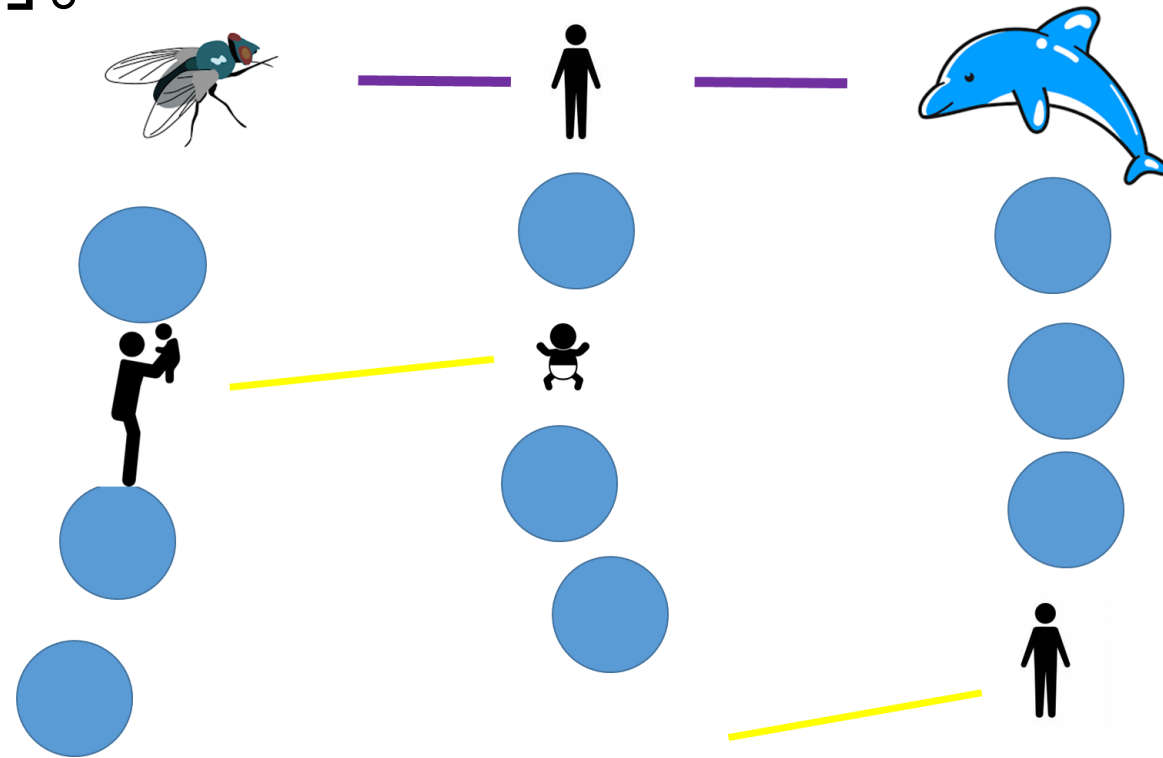


Karma of previous life **affects** this life,
and conducts of this life **affects** the next life.

= endless cycles of rebirth

B, 生きとし生けるすべての生とつながる

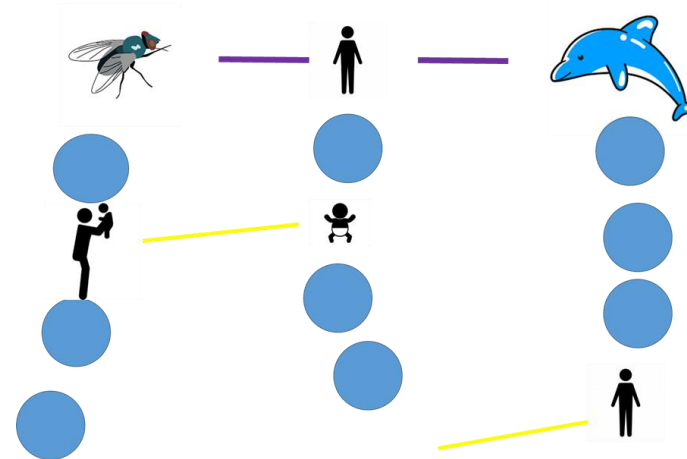
「この蠅は、過去世では、あなたの母親だったかもしれない」。



身内の感覚

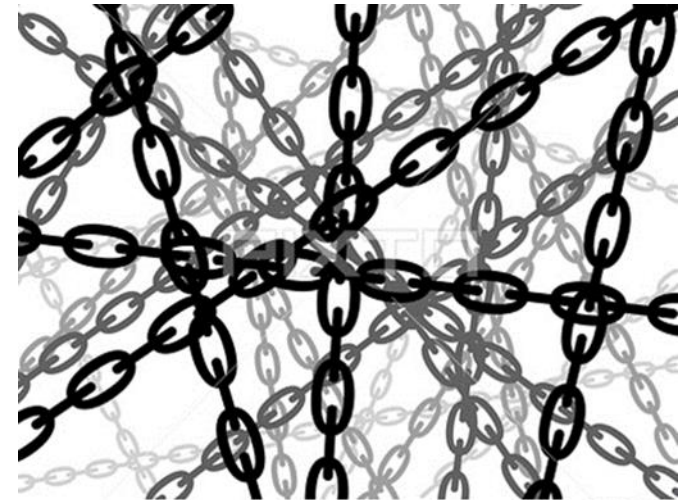
現世の身内だけではない、
過去世の身内の可能性は無限に広がる

karmic connections
or networks



生きとし生けるすべてのものが、
生まれ変わる中で、どこかで身内となる。

カルマのつながりの中で、
互いに結ばれている。



4、カルマの法則

徹底した因果関係

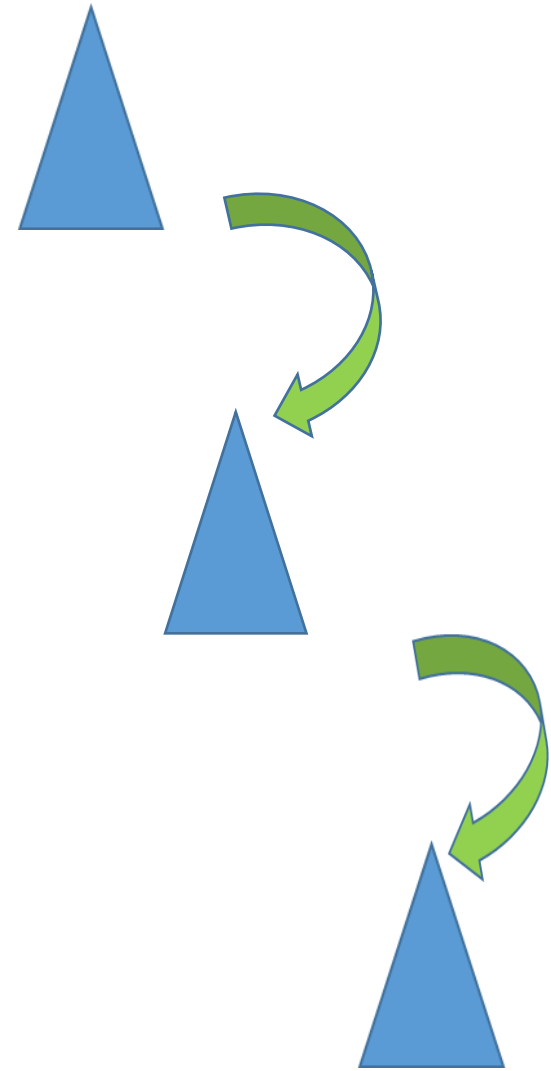
すべての出来事には原因がある

現在の出来事は過去の「結果」であり、
現在の行為は将来の状況の「原因」
になる。

善悪の行為が「カルマ」を残し、
その「カルマ」が原因となって
後の結果を招く。

現在の出来事は、過去の行為
がもたらした「カルマ」によって
生じる。

現在の行為は、将来に何らか
の「カルマ」を残す。

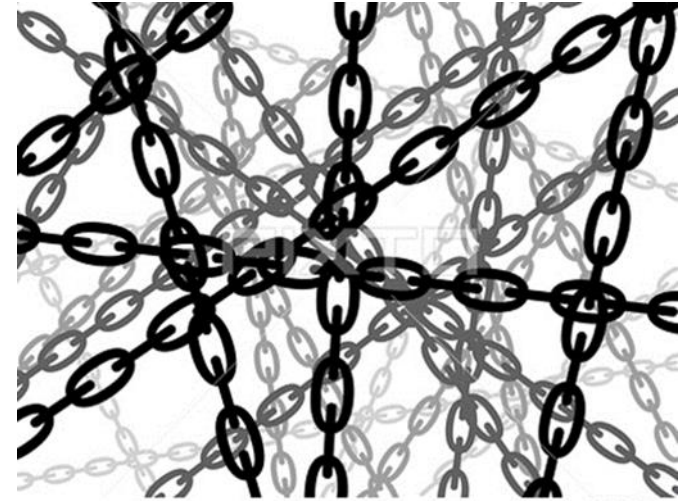
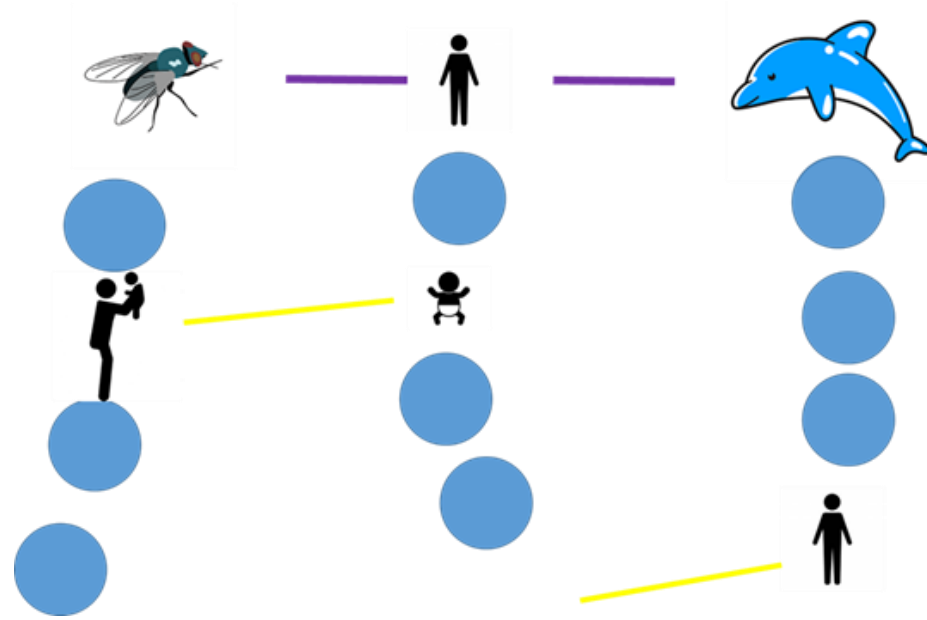


「貯金」の譬え ⇒ 自己責任

善のカルマ = 貯金。

今は使わずに将来必要が生じた時に使うことができる。

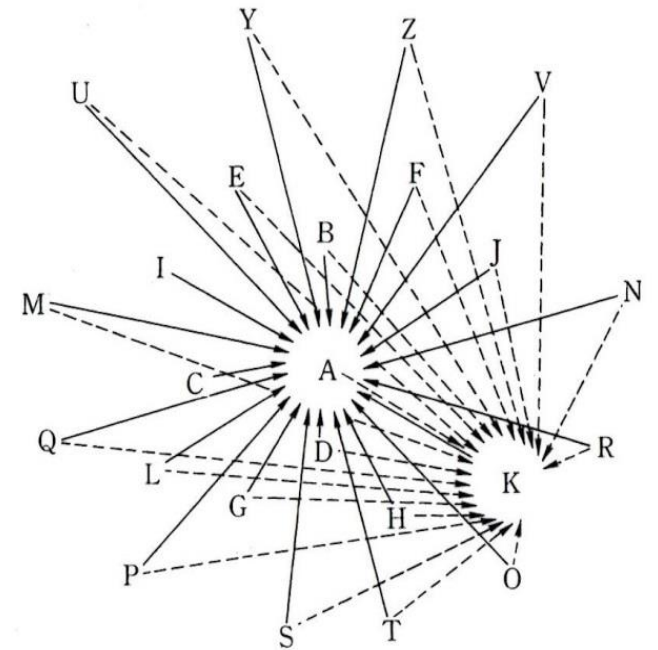
悪のカルマ = 借金。今は支払わずにすむが、いずれその返済が重くのしかかる。

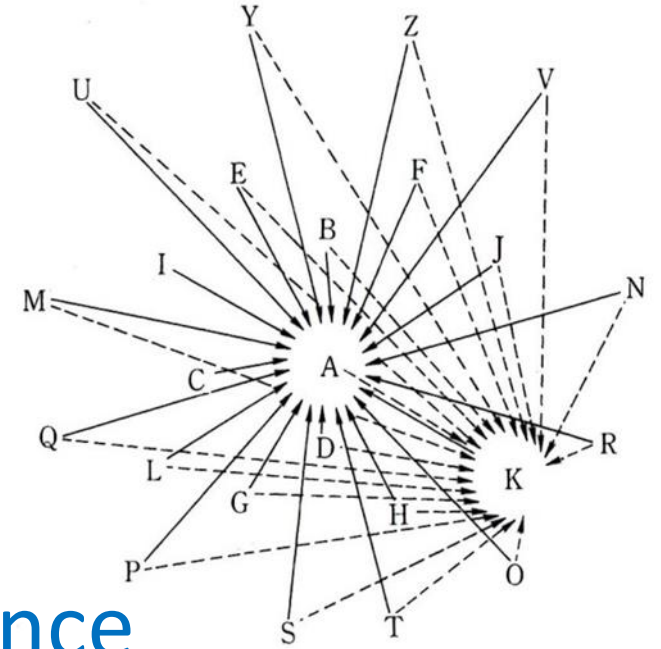
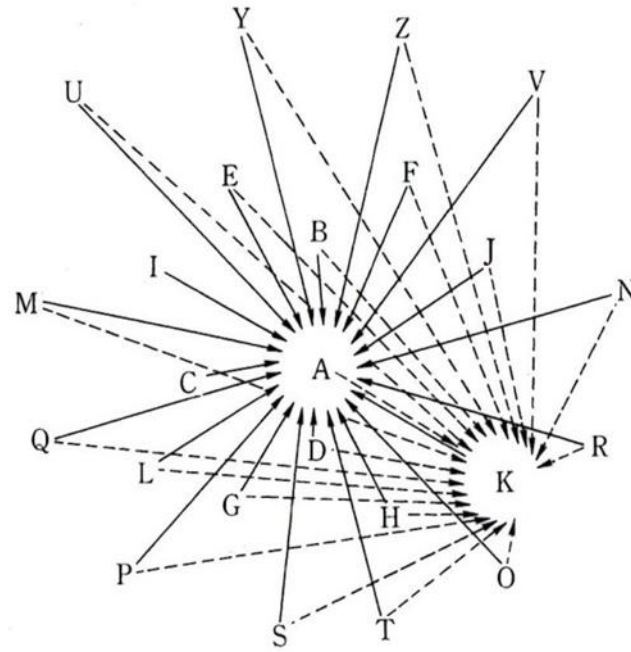
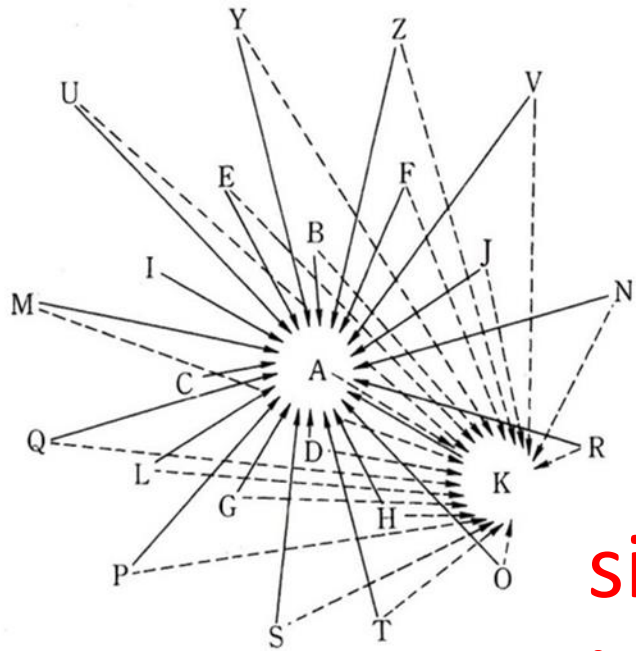


緣起 pratītya-samutpāda

the **dynamic, simultaneous and interdependent emergence and existence** of all things

緣起 = 無自性 = 空





simultaneous and
interdependent emergence

5、私は「転生を語らない人々」の中で育った。

そう気がついたのは、「転生を語る人々」と親しくなってから。

ブータンという、転生を前提にした社会を生きる人々と親しくなっていたからのことである。



生まれ変わり
rebirth

ブータンの言葉
(ゾンカ語)には
二種類ある

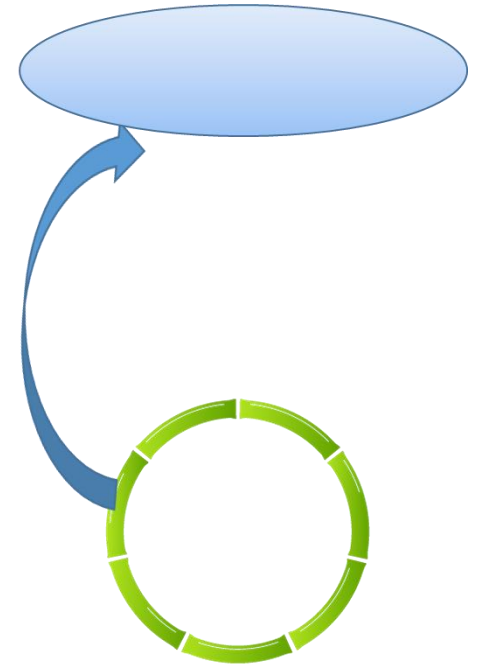
‘Yanshy’
rebirth of Rinpoche

‘Kewa’
rebirth of common people

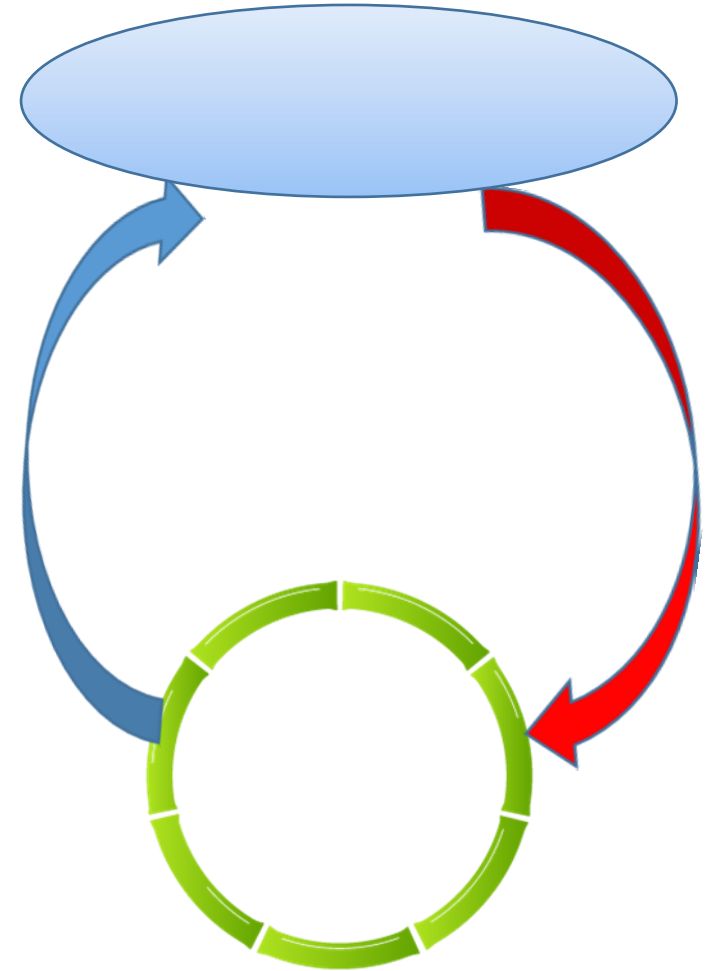
Yanshy;

Rinpoche come back to this world **by their own will**.

Rinpoche had been released from the karmic loop, they do not need to come back to this world.



Nonetheless, they do
come back again
through **their own will**
in order to save others.



Kewa,
Common people must come back
again, **following the karmic loop.**



This does not depend on one's own
will, but is **an inevitability of fate.**



Yanshy

Rebirth of Rinpoche

Kewa

Rebirth of
common people

Rebirth is rebirth, regardless of the person.

No difference between 'birth' and 'rebirth' in Dzongkha language.

Birth



Rebirth

Kewa

Every birth is rebirth

6、 Students of Royal Thimphu College (business)



‘I was born here Bhutan,
because I was good in my previous life.

Bhutan is the nearest country to the
enlightenment.

Bhutan is the most religious country,
I am very happy to be born here.’

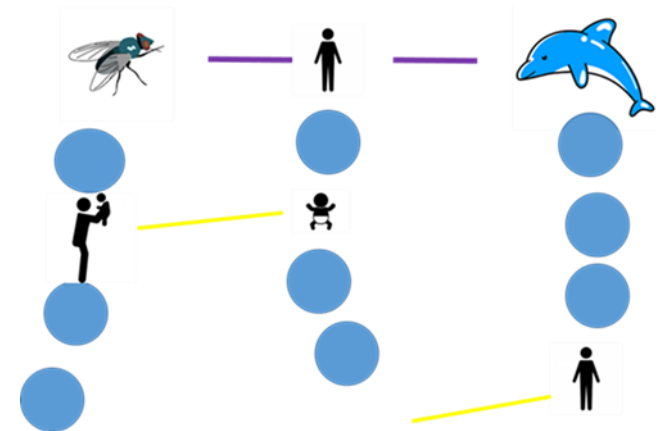
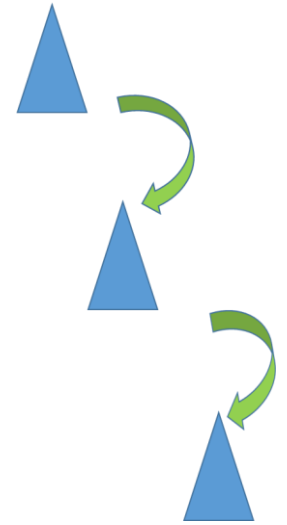


7、輪廻の思想

「自我感覚」に及ぼす影響

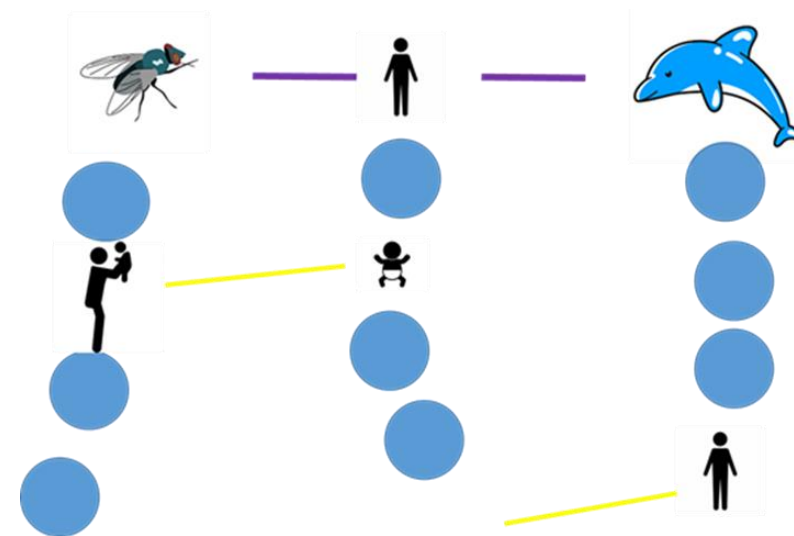
時間的輪廻：「私」の時間を延長し、
自我の個性(独自性・一貫性・一性)を強める

空間的輪廻：「私」の境界を崩し、
自我の個性を弱める



空間的輪廻において、転生は「私」の独立をゆるめる。

過去世において「私」は別の生物であったとすれば、人間と他の生物との境が薄くなる。



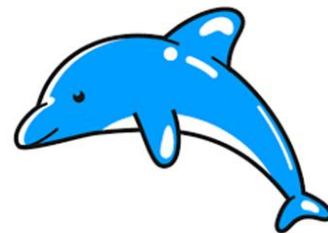
一回限りのこの「私」という独自性がゆるむ。

複数の「わたし」。
無限の「わたし」に開かれてゆく。

「私」が複数になるのではない。

「魂」が、「わたし」になっている。

「私の過去世が蝶であった」のではなくて、
ひとつの魂が、ある時は蝶として現れ、
ある時は私として現れ、いずれまた違った姿で現れてくる。



数ある場面のうちの一つとしての「わたし」。

A sense of 'one of them'



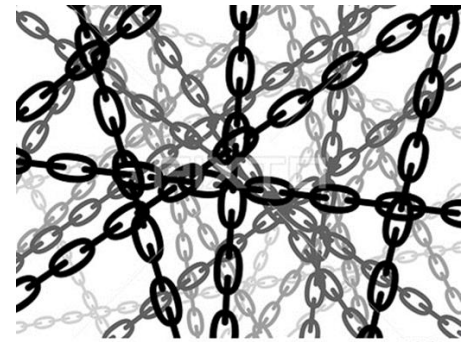
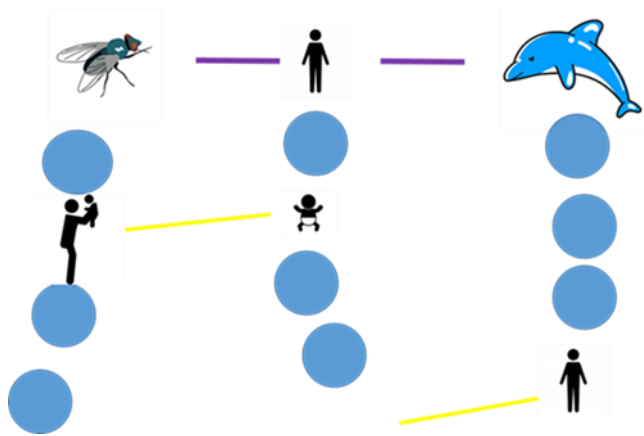
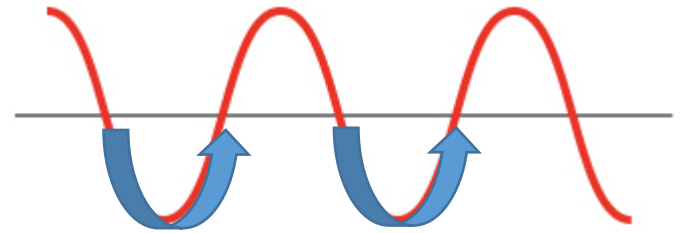
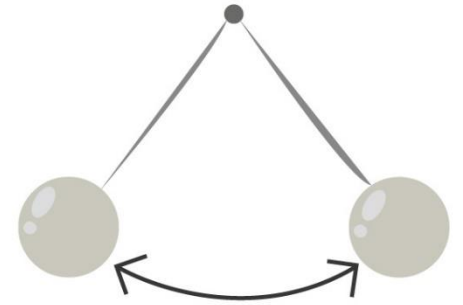
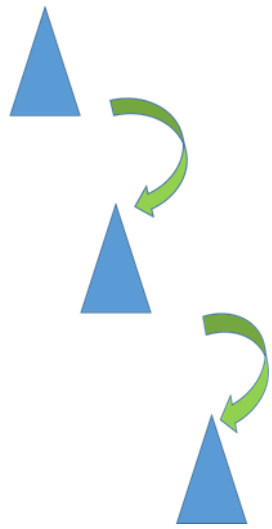
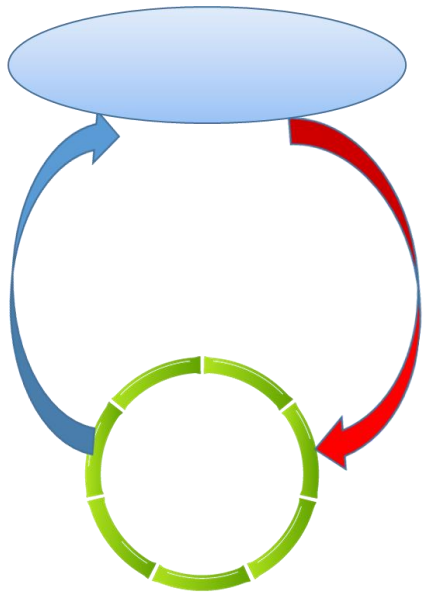
伝統工芸 (Zoring Chusum) 13styles



No undersigned
They never left thier name.



A sense of 'I' needs a copyright.



ありがとうございました。

